慈照寺は鹿ケ谷の北にあり、一名銀閣寺とも称し、禅宗にして夢窓国師を開祖とす。原此地は足利八代の将軍義政公、文明十二年に政務を譲りて閑居し給ふ別荘なり、故に東山殿と号す。〔延徳十二年正月七日に薨じ給ひて、慈照院殿喜山公と法名し、遺命によつて此所を寺とし給ふ〕

東求堂は義政公の持仏堂にして、観世音を本尊とす。又慈照院の像を安置し。西のかた上壇にかくる水引は濃紫の印金なり、古渡にして世に稀なる奇物とす。若松の画は相阿弥の筆、■々鳥は永納の画なり、茶湯の間は四畳半にして、東山殿の物数寄なり、茶亭四畳半の濫觴とぞ。高貴の賓客常に集会ありて、茶の道を楽み和漢の奇物を翫給ふ、これを後世に伝りて時代物といふ。

二重の高閣あり。〔北山鹿苑寺の金閣に准じてこれを銀閣と号す〕上を心空殿、下を潮音閣といふ。鎮守八幡宮は護国廟となづく。閣のまへに橋ありて分界橋、迎仙橋、濯錦橋、臥雲橋といふ。巽のかたに飛泉あり、洗月泉と号。流下の橋を龍背橋といふ。仙袖橋、仙桂橋は東求堂のまへにあり。落照岡には躑躅を植られて、夕陽を止む。向月台、銀沙灘には白沙を敷て落月を惜む。細川石、畠山石、山名石は管領職の献にして、其英名は後世に朽ず。浮石、坐禅石は池中にありて淡路島山の俤あり。龍蟠石、蹲虎石、臥牛石、伏虎石、点頭石、布袋石、天柱峯、回雁峯、香炉峯は其石の形によりて号るなり。北斗石、落星石、寿星石、濯纓石、謝公塢は故事を以て名とす。其外大内石、爛柯石、釣月台、仙人洲、白鶴島、臨湖台、仙草壇あり。ひがしの山を月まつやまといふ。抑此庭は東山殿の好にして、茶道相阿弥台命を

蒙りて造しなり、庭中の風光真妙にして山水の法式をもれず、四時の壮観足らずといふ事なし、末代庭造の軌範とするなり。洞庭西湖（とうていせいこ）も掌に握り、松島象潟（まつしまきさかた）も目前にたくみて、壺中に山川を縮め、一粒の粟中に日月を蔵したる、神仙の術ありとぞ見えにける。